公益財団法人 日本水泳連盟

水泳日本代表選手団
危機管理マニュアル

公益財団法人 日本水泳連盟

2017年4月

競泳 トビウオジャパン TOBIUO JAPAN

飛込 翼ジャパン TSUBASA JAPAN

水球 ポセイドンジャパン POSEIDON JAPAN

シンクロ マーメイドジャパン MERMAID JAPAN

OWS トビウオジャパン TOBIUO JAPAN

はじめに

日本人は、以前より日本列島が海という自然の防壁に守られてきた結果、テロ事件等への危機意識が低いと言われてきましたが、2001年9月11日のニューヨークにおけるテロ事件以降、我が国のスポーツ界においても国際大会への参加をいかに考え、海外派遣の際の安全管理はどうあるべきかが大きな課題となりました。

水泳は他競技と比べ、若年層の選手も多く、海外派遣の是非も議論されるところですが、テロ等に過敏となった海外派遣自粛で、水泳界の活力低下を招くことは大変不本意であり、また、競技力向上を図る上での国際競技大会参加の持つ重要性も考慮されるべきものと思います。

そこで、本連盟では、2001年10月18日に、危機管理委員会を設置し、海外派遣決定に対する基本的考え方、及び海外派遣時の安全管理のあり方を取りまとめ「危機管理マニュアル」を作成いたしました。本マニュアルは第４版になります。

つきましては、海外派遣の日本代表選手団に選ばれた各選手、役員は、本マニュアルを熟読し、万全の安全管理体制のもとに競技に専念し、海外派遣での好成績を収めることを期待いたします。

2017年４月

公益財団法人 日本水泳連盟

会　　長
危機管理委員長　青　木　　剛

〈目　　次〉

1．安全対策の基本的心構え …… 1
（1）自分とチームの安全は自分達全員で守る（2）予防が最良の危機管理
（3）悲観的に準備し、楽観的に行動する（4）安全の為の三原則の順守
2．居住面の安全対策 …… 2
（1）事前チェック（2）ルートの安全確保（3）地域の安全確保
3．生活面の安全対策 …… 4
（1）到着後（2）訪問者に対する注意（3）チームの協力、チームの注意
（4）外出時の注意（5）電話（6）鍵（7）クレジットカード
4．車で移動するときの安全対策 …… 7
（1）日常の車の整備（2）車での移動
5．安全管理の心得まとめ …… 8
（1）安否確認（2）連絡の遵守（3）行動はグループで（4）通信手段の確保
（5）AD カード・公式服装等の管理（6）報告の重要性（7）不審や異変に対する情報提供
（8）気軽に受け取るプレゼント（9）安全の三原則
6．爆発物等、想定される危険と対処の仕方 …… 9
（1）爆破物が仕掛けられやすい場所は長居を避ける（2）旅行荷物等に対する爆破物警戒
（3）配達物・届け物に対する警戒（4）同時多発型爆発への対処
（5）生活空間に仕掛けられる爆破物（6）車両爆弾への対処（7）ハイジャックの対処
（8）誘拐への対処（9）化学テロへの対処（10）火災避難
（11）大地震に遭遇した場合
7．事件・災害発生時の対応 …… 11
（1）いつ、何を、どこへ（報告）（2）事件・災害情報の報告・伝達
（3）事件・災害時の緊急連絡先
8．（公財）日本水泳連盟の危機管理体制〈危機管理委員会〉 …… 12
（1）海外派遣決定の意思決定方法（2）海外派遣をする場合の危機管理
（3）事件・災害発生時の緊急対策本部の設置
9．公益財団法人 日本水泳連盟の海外旅行傷害保険の取り扱いについて … 13
10．安全確保のためのチェックリスト …… 14
危機管理情報の流れ 〈図 1〉 …… 16
事件・災害発生時の情報ネットワーク 〈図 2〉 …… 17

1 安全対策の基本的心構え

（1）自分とチームの安全は自分達全員で守る

日本は他の国と比べて治安事情が良いですが、海外では国、地域によっては治安が悪く、更に頼るべき治安機関も日本的感覚から言えばその信頼性に問題がある場合もあります。そのような状況の中では何よりも、自分とチームの安全は自分達全員で守るとの強い心構えが極めて大切です。

（2）予防が最良の危機管理

事件、事故、災害などに巻き込まれてしまってからでは事後処理は大変です。予防こそが最高かつ最重要の危機管理であることを肝に命じ、予防のための必要な努力と経費は惜しんではいけません。チーム全員がケガもなく、無事に帰国できればその安全のための経費は最も価値ある投資です。

（3）悲観的に準備し、楽観的に行動する

使い古された言葉ですが、「備えあれば憂いなし」です。常に最悪の事態を想定し、物心両面から準備を行い、万全の対策を講じた上で、日々の行動を注意しながらも楽観的に生活することが重要です。

（4）安全の為の三原則の順守

安全の為の三原則とは「目立たない」、「行動を予知されない」、「用心を怠らない」です。これは至極当然のように思えますが、この三原則を守って海外遠征や合宿をすることは、そう簡単なことではありません。日本での行動形態、生活様式をそのまま海外に持ち込むと、本人が意識していると否とに関わりなく目立ってしまい、自らを危険にさらすことになる場合もあります。

①目立たない

必要以上に華美な服装、装飾品をつける、現地ではあまり見かけないような目立つ車に乗る、公共の場（レストラン、バーなど）で大きな声で現地の悪口を言う、政治・宗教・文化・習慣・生活環境などの批判をすることは、目立つばかりでなく狙われる原因にもなるので、差し控えましょう。犯罪者やテロリストは、標的を選ぶ際には目立つ人物に目を付ける傾向があります。

②行動を予知されない

行動のパターン化（競技・練習会場への通路、買物、娯楽、外食の際の移動のルートや時間等の固定化）は犯罪者、テロリスト等に攻撃計画を立て易くしますので、移動の際のルートや時間を含めなるべく不規則な行動をし、予知されないようにします。犯罪者にとり行動がパターン化した人は一番狙い易いのです。

③用心を怠らない

現地に到着した当初は安全に気を配っていても、現地で生活し慣れが生じてくると、当初注意していた諸点を忘れがちになり、思わぬ被害に遭うことがあります。また、現地の治安状況は予期せぬことが原因で大きく変化することもありますので、チーム全員、選手団全体で気持ちを引き締める機会を定期的に持つことが重要です。

2 居住面の安全対策

（1）事前チェック

・住居（ホテル等）を選ぶ時には、安全確保を最重要点とし、他人任せにせず、自分で物件〔立地条件、家屋の形態（集合住宅か独立家屋か）、防犯上の問題点〕を調査し、安易に妥協しないで選ぶことが大切です。
・滞在国（地）の政治・経済情勢、治安情勢、宗教、文化、習慣、対日感情などに関して知識を得る努力をすると同時に、関係者からブリーフィングを十分受けることは、現地の脅威の把握、居住場所の選択などをする上で大変重要です。

自分とチームを守るために必要な情報は

①滞在国における脅威の対象（形態、種類）
一般犯罪については各犯罪に共通する教訓・注意事項、テロ・ゲリラの脅威がある場合には、それら過激派グループの性質・活動状況など
②最近発生している治安関連事件の概要と教訓
③日本人や日本企業、外国人などに対する事件例・教訓
④治安機関や消防、医療機関などの能力・信頼性
⑤鳥インフルエンザの発生状況
⑥外国人にとって危険であると考えられる都市部及び郊外の特定地域、事件がよく発生する時間帯
⑦公共交通機関を使用する時や、車を運転する時の注意点
⑧滞在国の法律、文化、習慣、宗教などに照らし、禁止或いは避けるべきこと（例えば公共の場での飲酒）
⑨その他、安全対策を講じる上でその国で特に注意すべき事項などです。

・渡航国（地）の治安機関の能力と信頼性を正確に把握することは、事件の防止対策や、万一事件に巻き込まれた時の対処方針を立てる上でも重要なポイントとなります。この種の情報については、現地新聞などの公開情報に加え、現地の大使館、また現地の法人会社、長く住んでいる日本人、現地の信頼できる関係者などから入手することができます。
・住居を選ぶ時、現地の在留邦人や大使館員の助言を受けることは、候補地域の安全性、防犯上の留意点などに関する情報を入手する上でも大変参考となります。渡航国（地）に関する各種の情報を収集し、脅威を把握した上で、考え得る危険を分析し、それに応じて住居の安全対策基準を定めます。
・まず市街地の地図を入手し、競技･練習会場、危険地域、在留邦人の分布場所、警察署、病院、消防署、学校、スーパーマーケットなどの所在地を記入し、住居からそれぞれの場所に行くルートなどにつき図上研究を行うことが必要です。自分たちの住居は自分たちの立てた基準に合わせ、自分自身の目で確かめてから決定します。
・ホテルの部屋は 2 階から 10 階の間で、出来れば火事の時のはしご車が届く限界の 4 階～ 5 階以下にしてもらうように依頼する。また、チェックインの際に緊急時の避難ルートを確認しておきます。
・鍵の開け閉めが磁気カードで行われており、また、24 時間体制でセキュリティーが敷かれているようなホテルを選びます。
・階段よりもエレベーターに近いところにある部屋を依頼する。

（ホテルでは火事よりも強盗の発生率が高く、エレベーターから部屋までが遠いと、賊に狙われる可能性がおのずと高くなる）

（2）ルートの安全確保

・常に最悪の状況（事故、一般犯罪、誘拐等）を想定した上でその対策を考えながら、警察署、病院などの場所を把握し、日常の移動経路と手段を決めます。
・住居から毎日通う場所（競技・練習会場など）への安全なルートを 2 本以上確保しておくことは、行動をパターン化させないために是非とも必要です。利用ルートも道幅が狭かったり、一方通行である場合、攻撃（強盗、誘拐など）され易く、また、攻撃を受けた際、逃げ道がなくなり危険です。利用ルートに避難場所（警察署など）があれば尾行など何らかの異変を感じたとき、危険を回避することができます。

（3）地域の安全確保

・緊急事件はいつ起こるかわかりません。いぎという時に、警察、消防、医療、救急機関などが短時間で利用できるかチェックをします。スラム街や問題地域が住居の近辺にあり、そこから住居に安易に近づくことができる場所は、防犯上問題があります。また、近所に空き家や空き地など、賊が隠れる様な場所がないかも確かめておきます。
・反政府ゲリラ、過激派が活動している地域では、これらの組織の行動パターンを分析し（例えば軍・治安関係機関への爆弾攻撃が多い）、もし住居の近くに攻撃対象となり得る施設があれば、巻き込まれて被害に遭う危険があることに留意する必要があります。

3 生活面の安全対策

（1）到着後

・住居周囲の環境、一方通行などの道路事情、地形に慣れることが大事です。緊急時に備え警察、病院、消防機関などの位置や連絡・利用方法なども確認しておきます。
・日常の行動は、現地の習慣や価値観に配慮し、現地の人々の反感を買うような行動は慎み、できるだけ周囲の住民に溶け込むよう努力します。
・入居後は安全対策の面から住居を再度点検し、弱点があればその弱点を補うべく検討することが大切です。

（2）訪問者に対する注意

・訪問者があっても（特に前もって約束の無い訪問者）、すぐには扉を開けず、覗き窓やインターフォンで訪問者の身元を確認することが重要です。不審な同伴者はいないか、附近に不審者はいないか良く確認して下さい。また、身元を確認した後も、扉を開ける時には安全チェーンをかけたまま細めに開け、再度確認をしてから扉を開けるよう心がけましょう。
・予期せぬ品物が届けられてきた時は、その品物を扉の外に置くように言い、送り状への受取サインは扉の下からやり取りし、配達人が立ち去ってから周囲の様子を確かめ、扉を開けるようにします。
・物売りや電話、水道、電気、ガスなどの工事人などは、不用意に住居の敷地内に入れてはいけません。頼みもしない工事人が来た場合には、インターフォンなどで用件、事務所の名前と電話番号を聞き、覗き窓から身分証明書などによる確認を行い、更に事務所に電話で確認をするくらいの用心が必要です。

（3）チームの協力、チームの注意

・まずはチームの安全はチーム全員が一致協力して守るとの心掛けが必要です。その為にもチームに対しても安全に関する教育を徹底しておきます。チーム一人ひとりが住居に異常を発見した時の行動を知っていなければならず、また電話や携帯電話の在り場所・使用方法は勿論のこと、公衆電話の場所や使い方を知っておくことも大切です。
・チームの日程、習慣、その他チームの行動についての計画をむやみに必要以外の人に話さないようにします。
・緊急事態はいつ起こるかわかりません。チーム全員の行動、居場所を常に把握し、いざという時にはお互いが直ちに連絡を取り合えるようにしておきます。各人の予定の行動や計画が変わった場合には連絡をとりあっておくようにすることも大切です。

（4）外出時の注意

・外出するときは、戸締まり、施錠漏れ、火の不始末がないか今一度確認した上で覗き窓などから周囲の状況、安全を確認してから出かけるよう習慣づけます。帰宅時も外出時と同様に、住居の周囲に不審者が忍んでいないかどうかを良く確認し、安全を確かめてから入るよう注意が必要です。
・外出先での社交活動などでは、現地の人の悪口、民族・種族的問題、宗教や文化、習慣などにつき、現地の人の反感を買うような発言をすることは目立つことになり、攻撃の対象となる可能性があります。特に飲酒などに厳しい国では、日本のように「羽目を外す」ことは、周囲の人間に不快感を与えますので差し控えるべきですし、肌を露出するような服装にも十分注意が必要です。
・ウエストポーチはナイフ等で背後から切り裂かれたりしないように、体の前の中央に装着するようにしましょう。
・強盗に襲われた場合に備えて、期限切れのクレジットカードや現金がいくらか入っている財布を、自分が普段使用するのとは別に用意しておくことも一策です。
・鳥インフルエンザの発生が予想される地域では、市場など感染源となるような場所に立ち入らないことや、生肉を食べないようにすることが肝心です。

（5）電話

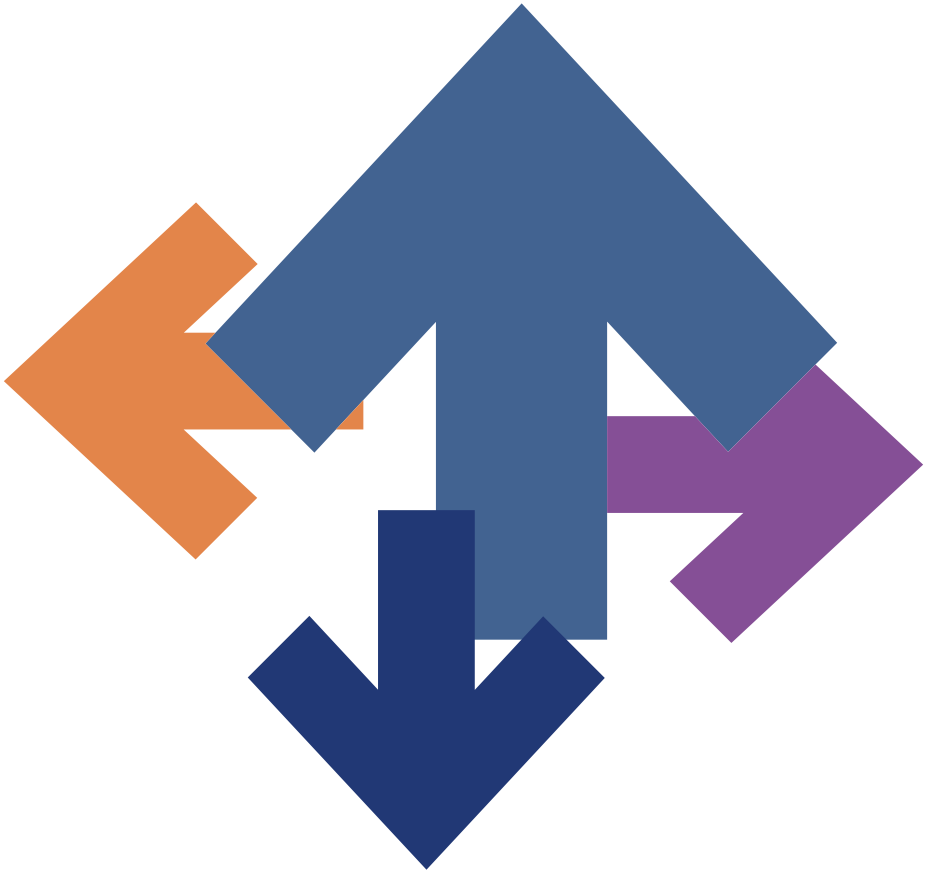
・携帯電話や、公衆電話のかけ方等もチーム全員が知っておくことが重要です。
・電話機の側にはメモ帳と筆記具、緊急連絡先リスト（大使館・総領事館、警察、消防署、病院など）を常に置いておき、必要ならば録音装置の設置も考えます。また、助けを呼ぶために最小限必要な現地の言葉を日頃から訓練し、電話機の側に書き留めて置きます。（また同じような「単語帳」は常に身につけておくと良いでしょう）
・日本の習慣でつい電話をとる時に、こちらから名乗ってしまいますが、賊が探りを入れる為の電話である可能性もあるので、相手が名乗るまではこちらから名乗るのは避けるべきです。「間違い電話」に対して不用意にこちらの番号を教えたりすることは、相手に情報を与えることになり危険です。少しでも不審な感じを受けたときは、番号違いと言って電話を切ります。
・万一脅迫電話がかかってきた場合は、落ち着いて対処し、メモなどに相手の特徴を書き取り、すぐに必要な所に連絡がとれるよう緊急時の処置を各人が知っておく必要があります。
・外国で使用できる携帯電話をホットラインとして確保しておくことも重要です。

（6）鍵

・鍵は警備対策上の基本であり、その取り扱いには細心の注意を払います。住居の鍵は勿論、車の鍵についても厳重な注意が必要です。
・鍵は常時携帯し、住居内でも机の上や誰もが見つけやすい場所に掛けておくようなことはせず、鍵のかかる場所（金庫等）に保管しておくことが望ましい。鍵には脱落を防ぐため鎖や紐を付けると良い。鍵は、本人とチームのみが持ち、貸与すべきではありません。

（7）クレジットカード

・出かける際、携行するクレジットカードは何枚も持たず１枚か２枚にし、現金持ち出しも、最小限に留めます。
・盗難や紛失に備え、カード情報（番号、会社名、有効期限など）やカード会社の電話番号をまとめて記録したものを自宅などに保管しておきましょう。
・トラブルにあった時は、後日の証明のため、ポリスリポートを警察からもらうと良いでしょう。
・ATM を使用するときは、ビルの角や、林や森などの近くの ATM は避け、明るい場所の ATM を使うよう心がけます。



4 車で移動するときの安全対策

（1）日常の車の整備

・車は定期的に点検し、異常があればすぐに整備して良好な状況にしておき、ガソリン、燃料は常時十分入れておきます。トランク内に予備の水、オイルなども常備しておきます。
・駐車の際は管理の行き届いた駐車場を利用し、路上駐車は避けるべきです。例え短時間の駐車であってもドアは常にロックしておく習慣をつけることが大切です。
・「目立たない」ために、派手なステッカーなどを貼ることは避けましょう（逆に何らかの装飾を施した方が現地の車とみなされやすい場合は、同様の装飾をすることも考えられます）
・貴重品や車の登録書類などは外部から見える車内に放置してはいけません。

（2）車での移動

・車の乗降時と、駐車場から幹線道路に出るまでの間が最も危険で狙われやすいので、周囲に不審な人物はいないか注意し、少しでも異常を感じたら安全が確認されるまで乗り降りしないようにします。帰宅時も同様に周囲の安全を確認した上で駐車場に入れるようにします。
・一般犯罪者やテロリストにとり、毎日同じ時間、同じルートを使用する者は、一番狙いやすい標的です。
・目的地での駐車は守衛などにより管理されている所を利用し、路上駐車は避けるべきです。
・目的地までの道路事情は前もって調査しておき、脇道や一方通行、人通りの少ない道は利用せず、できるだけ交通量の多い大通り、照明が十分な通りを通るようにします。道路では、他の車線からの攻撃から逃げられ、信号待ちの際に歩道側から賊に襲われないためにもできるだけ中央寄りを走るようにし、車線の多い道路では中央レーンを走るように心がけます。また、停車時に近づいてくる物売り、車洗いなどにも注意します。
・緊急時に備え、目的地までのルートのどこに警察や病院などの施設があるか調べ、爆弾、襲撃などの対象となる可能性のある場所（例えば軍、政府関係機関など）も調査しておき、事件に巻き込まれないように注意します。
・出発前には目的地までのルートを十分頭に入れておき、万一計画ルートに支障が生じた場合の代替ルートを準備しておくことは、安全に目的地へ到達するために大切なことです。
・走行中は全てのドアをロックし、窓は閉めるか、またはわずかな隙間だけ開けるようにします。走行中であっても外から見える位置に貴重品を置いてはいけません。追突事故や誘拐・襲撃などの危険性を考え、どのような事態が起きてもすぐに回避行動がとれるよう走行時、停車時を問わず車間距離を十分保つことが大切です。
・走行中の周囲の状況確認は運転者だけに任せることなく、同乗者全員が注意を払う必要があります。一人より複数の人間の方が周囲の状況を的確に判断できます。
・長距離を走る場合には、単独行動は避け、必ず複数の車で出かけるように心がけ、夜間はなるべく一人で運転しないようにしましょう。
・天気予報などに注意し、雪などの気象状況の急激な変化にも備えて準備をしましょう。

5 安全管理の心得まとめ

1．安否確認
選手・役員の安全確認のために安否確認の重要性を認識し、自ら進んで掌握 下に入り協力すること。

2．連絡の遵守
決められた安否連絡は忘れずに実行すること。この連絡は管理の根幹を支える重要な役割を果たすもの。

3．行動はグループで
安全のため、単独行動は避け、できる限りグループで行動すること。

4．通信手段の確保
本部より貸与する携帯電話は常に充電を怠らず、緊急に際してすぐに利用できるよう管理すること。

5．AD カード・公式服装等の管理
AD カードや選手団公式服装等は本人が厳重に管理し、万が一紛失した場合はただちに報告すること。悪用される可能性が高い。

6．報告の重要性
何かあった場合は落ち着いて、まず第一報することを心がけ、発生している事実をすみやかに報告すること。

7．不審や異変に対する情報提供
不審や異変に気づいた場合は独断で判断することなく、ありのままのことを情報として報告すること。

8．気軽に受け取るプレゼント
ファンから頂くプレゼントはとても嬉しいものです。でも､ここは日本ではありません。特に梱包されている物は、十分に確認のうえ、開封すること。

9．安全の三原則
＊目立たない。
＊行動を予知されない。
＊用心を怠らない。
自分自身を守る安全の三原則を常に念頭に置き行動すること。

6 爆発物等、想定される危険と対処の仕方

1．爆破物が仕掛けられやすい場所は長居を避ける。
＊空港ロビー、チェックインカウンター周辺。
＊不特定多数者が出入する場所。
＊地下構造の空間、駅ターミナル等の公共輸送機関施設。
＊地下、屋内の駐車場。
＊記念碑等のシンボリック施設、メモリアル公園。
＊米国関係施設の周辺、政府施設、宗教施設。

2．旅行荷物等に対する爆破物警戒
＊空港やホテルロビーでは瞬時でも放置しない。
＊自分の荷物が似た物にすり変わっていないか常に注意。
＊パソコン等電子機器は爆破物の細工が可能で盗難が多い。
＊電子機器は爆破物と疑われチェックが厳しい。
＊見知らぬ人の荷物を一時的に預かったりしない。
＊荷物を置いて立ち去る行為を目撃したら不用意に手を触れず、警察官に知らせる。

3．配達物・届け物に対する警戒
次のような不審物は爆破物の疑いがあるので、警察又は本部へ通報する。
＊梱包が厳重で質量のあるもの。
＊時計音が聞こえるもの。
＊梱包に油シミ、破損、異臭があるもの。
＊差出人が不明か、見知らぬ人や団体名の場合。
＊余分な切手が貼ってあるもの。

4．同時多発型爆発への対処
万が一身近な位置で爆発を目撃したり、爆音を聞いた場合は、直ちにその場所からの避難を冷静に判断しなくてはならない。
前項（1）に該当する空間にいる場合は連鎖的爆発に備え、一刻も早く離脱する。レストラン等はガラス飛散の危険を考え、窓側よりも奥の席に座るよう心がける。

5．生活空間に仕掛けられる爆破物
爆破物には不特定多数者を対象として無差別の危害を意図したものがある。
駅のゴミ箱、公共トイレ、ホテルの玄関やロビー、客室のドアノブに下げられた固形容器を揺するだけで爆破するものもある。平和に慣れた日本人には思いもつかない方法で、爆破物が巧みに仕掛けられていると考えなければなりません。

6．車両爆弾への対処

レンタカー等でも乗車する前に次のことを点検する。
①燃料タンクの下部や車体の下に不審物がないか。
①排気筒の穴に異物がないか。
③室内に異物がないか。
★触れない。　★蹴らない。　★踏まない。　★揺すらない。
★嗅がない（吸引毒性の薬物あり。）

7．ハイジャックの対処

万が一、飛行機のハイジャックに遭遇した場合は、次のことに注意する。
＊平静を保ち犯人には丁寧に接し逆らわない。騒がない。
＊犯人は顕在するものだけとは限らない。他にもいると考え無理な抵抗はしない。
＊治安機関による救出や突撃に際しては床に伏せる。絶対に手を上げてはならない。
（犯人と誤認され危険）
＊万が一の場合に備え、搭乗したら最寄りの出口までの椅子を数え、真っ暗な状況下でも脱出できるように心がける。
（これは通常の空の旅にも必要な心得である。）

8．誘拐への対処

次のような不審がある場合は警察（または本部）へ通報（または連絡）する。
＊いつも見慣れた車から見張られている感じがある。
＊車で移動を追尾される感じがある。
追尾は交差点の左折を繰り返し、同じ道路に戻ってきた時、同一コースをたどった車は追尾車と考えて良い。この場合は出来るだけ人気の多い道を走行し、最寄り警察機関や行政機関等の前で停車し、素早く車から離れ建物内に入って助けを求める。

9．化学テロへの対処

有毒ガステロに遭遇した場合は、次のような現象が起こる。
＊視界が暗くなる。　＊息苦しい。　＊息苦しく鼻水が止まらない。
これらの症状には鼻・口を覆い、できるだけ早く風上に逃げる。
対処の基本原則（触れるな、嗅ぐな、留まるな）

10．火災避難

地下にいる場合は鼻・口を布で覆い地上に避難する。煙に巻かれたら床を這って壁づたいに出口を探す。

11．大地震に遭遇した場合

身体を防護できる頑丈な戸棚等に隠れて揺れがおさまるのを待つ。ガラスのある位置から離れ、閉ざしたドアはできるだけ開放。揺れがおさまってもすぐに表に出ないこと。

7 事件・災害発生時の対応

（1）いつ、何を、どこへ（報告）

危機管理では事件、災害が発生した時点で、いかに情報を正しく、しかも迅速に伝え、被害を最小限にする体制が整備されているかが、最も重要なことの１つです。そのためにチームの海外派遣を行う前には、危機管理担当者を任命し、役割を明確化しておくことが大切です。
また、緊急事態の時は
①どこに行けば支援を受けられるか
②誰に連絡を取ればいいか
③何をすれば良いか
を迅速で適格に判断する必要があります。とにかくパニックに陥らず、常に常識を持って行動し、流動的な事態にしっかり備えることが肝心です。

（2）事件・災害情報の報告・伝達

被害及び避難の状況報告は、事件・災害対策の基本となるべきものなので、正確かつ適切な状況報告をすることが大切です。事件・災害情報の報告は、概ね次の段階で報告します。また、報告された情報を担当責任者が全体像をまとめ、各関係者に伝達します。
①発生時　：電話、口頭、電子メール等により被害発生の日時、場所、災害の原因、被害の程度等を報告する。
②中間報告：その後判明した被害状況を情報収集の結果に応じて報告する。
③確定報告：最終的な調査結果に基く確定被害状況等を報告する。

（3）事件・災害時の緊急連絡先

日本水泳連盟事務局	81 － 3 － 3481 － 2306
日本水泳連盟担当委員長	81 －○－○○○○－○○○○
現地総領事館	○○○－○○○○－○○○○
現地所轄警察署	○○○－○○○○－○○○○
現地日本公館（大公使館）	○○○－○○○○－○○○○
外務省領事局海外邦人安全課	81 － 3 － 5501 － 8160
外務省領事局邦人テロ対策室	81 － 3 － 5501 － 8165
日本オリンピック委員会	81 － 3 － 3481 － 2233
所属都道府県水泳連盟（協会）	81 －○－○○○○－○○○○
チーム構成員の家族	81 －○－○○○○－○○○○
チーム構成員所属先	81 －○－○○○○－○○○○

8 （公財）日本水泳連盟の危機管理体制〈危機管理委員会〉

（1）海外派遣決定の意思決定方法

①情報収集担当（事務局）
　国内外の一般情報収集、開催地の情報収集等
②派遣決定会議の開催（常務理事会）

（2）海外派遣をする場合の危機管理

①常時連絡可能な体制の強化：緊急連絡用として地球上どこでも通話可能なインマルサット（衛星）携帯電話の携行
②海外旅行傷害保険の加入：現行保険金及び緊急時の救援費用保険の増額等

（3）事件・災害発生時の緊急対策本部の設置

緊急事態発生

（連絡担当：石井事務局長）

（緊急集合）
24時間体制

公益財団法人 日本水泳連盟　危機管理委員会（緊急対策本部）　（2017.4.1 現在）

	氏　名	役　職	緊急対策本部内の役割
委員長	青木　剛	会長	本部長
委員	泉　正文	副会長	外務省・スポーツ庁担当
〃	安部　喜方	副会長	FINA , AASF 担当
〃	坂元　要	専務理事	広報
〃	上野　広治	常務理事	JOC 担当
〃	設楽　義信	常務理事	情報収集、親族連絡担当
〃	鈴木　浩二	常務理事	情報収集、親族連絡担当
〃	村山よしみ	常務理事	情報収集、親族連絡担当
〃	鷲見　全弘	常務理事	情報収集、親族連絡担当
〃	平井　伯昌	理事、競泳委員長	情報収集、親族連絡担当
〃	伊藤　正明	理事、飛込委員長	情報収集、親族連絡担当
〃	原　朗	理事、水球委員長	情報収集、親族連絡担当
〃	本間三和子	理事、シンクロ委員長	情報収集、親族連絡担当
〃	金子日出澄	OWS 委員長	情報収集、親族連絡担当
〃	石井雄二郎	事務局長	情報収集、親族連絡担当

9 公益財団法人 日本水泳連盟の海外旅行傷害保険の取り扱いについて

[海外旅行傷害保険　補償内容]

東京海上日動火災保険㈱		海外派遣の日本代表選手団
傷　害	死亡・後遺障害	5.000万円
	治　療　費　用	300万円
疾　病	死　亡	2.000万円
	治　療　費　用	300万円
賠償責任（免責なし）		5.000万円
携行品損害（免責なし）		30万円
救援者費用		100万円
事業主費用		300万円

〈参考／引用文献〉
・海外赴任者のための安全対策小読本
　（外務省領事局邦人テロ対策室）
・在アメリカ合衆国日本国大使館からの情報
・危機と戦う　小川 和久著　㈱新潮社発行
・JOC 危機管理マニュアル　日本オリンピック委員会編集発行

10 安全確保のためのチェックリスト

出発前

A　住居を選択する前に	Yes	No
・滞在国の治安などに関するブリーフィングを十分受けた	□	□
・滞在国治安機関の能力と信頼性を把握した	□	□
・住居（ホテル等）の選択に際し、他の日本人の助言を得た	□	□
・滞在国の危険分析を的確に行った	□	□
・危険に応じた「住居の安全対策基準」を自分なりに定めた	□	□
・市街地（道路）地図を入手し、図上研究を行った	□	□

B　ルートの安全確保	Yes	No
・ルートの道幅は比較的広くかつ安全である（両通行であること）	□	□
・ルートには尾行された時に避難できる安全な場所（例えば警察署）がある	□	□
・決まった目的地まで行くのに、危険地域を通らなくても済む	□	□
・練習や競技会場、スーパーマーケットなど毎日でかける場所までの安全は十分である	□	□

C　地域の安全確保	Yes	No
・住居周辺の治安情勢をチェックした	□	□
・警察、消防、医療、救急機関などのサービスが緊急時に短時間で利用可能な範囲である	□	□
・スラムや問題地域に隣接していない	□	□
・住居の周辺に賊が身を潜めるような場所はない	□	□
・住居が監視される場所が近くにない	□	□
・不審者や不審車両に対する警戒が容易である	□	□
・付近に爆弾テロの目標となるような施設はない	□	□

到着後

D　到着後の安全確保	Yes	No
・周囲の環境、道路（特に一方通行路）、地形に慣れる努力をした	□	□
・警察、病院、消防機関などの位置と連絡方法を確認した	□	□
・最寄りの知人宅の位置と連絡方法を確認した	□	□
・住居の安全対策上の弱点を把握した	□	□
・住居の安全対策上の弱点を補うべく検討した	□	□
・近所がどのような安全対策をとっているか確認した	□	□

E　訪問者に対する注意	Yes	No
・訪問者の身元を確認してから応対している	□	□
・配達人（物）に対する警戒は十分である	□	□
・見知らぬ者（物売り、工事人等）を敷地内に入れていない	□	□

F　外出に際しての注意	Yes	No
・場所や日程の決まった外出をしていない	□	□
・戸締まり、施錠もれの点検を行った	□	□
・出発・帰宅時に周囲の警戒を怠っていない	□	□
・社交活動などにおいて、現地の反感を買うような発言はしていない	□	□
・鳥インフルエンザの感染源となる市場などには行っていない	□	□

G　電話	Yes	No
・電話（公衆電話、携帯電話）のかけ方を各人が知っている	□	□
・電話機の側に緊急連絡リストが常備されている	□	□
・電話をとる際、こちらからは名乗らない	□	□
・間違い電話に対しては、こちらの番号を教えない	□	□
・不審な電話に対する処置を各人が知っている	□	□
・脅迫電話があった場合の処置を各人が知っている	□	□

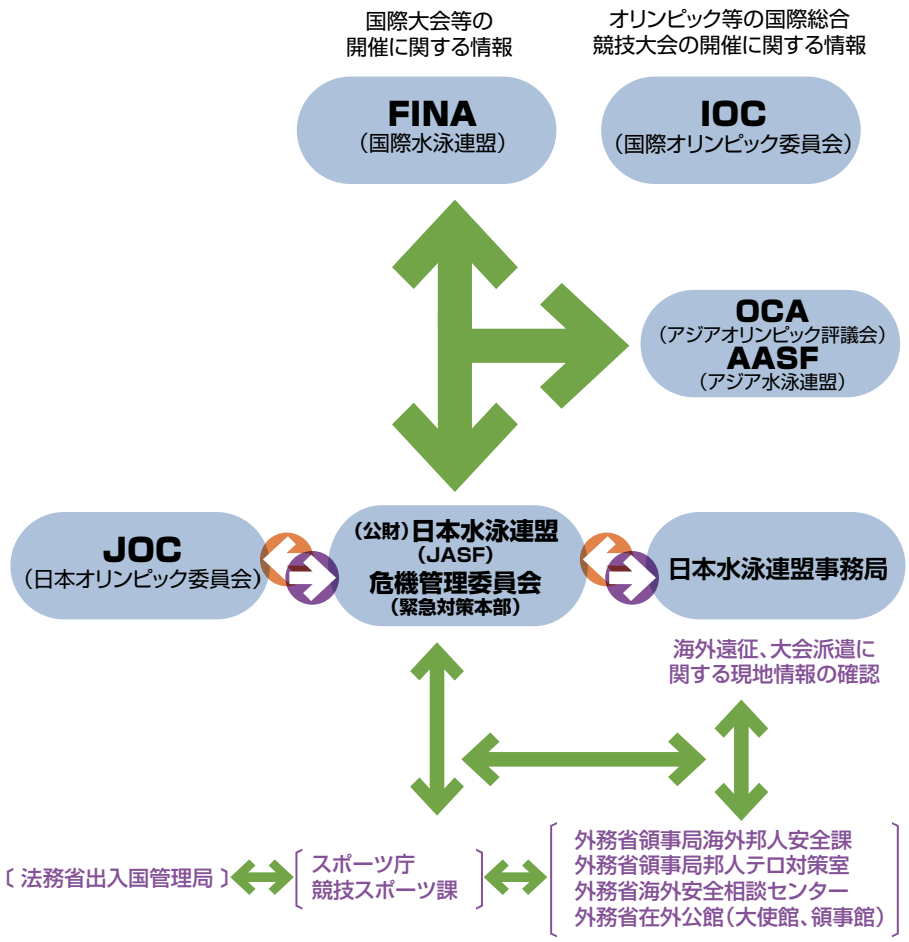
H　鍵	Yes	No
・鍵の取り扱いに十分注意している	□	□
・鍵は常時携帯し、保管にも注意している	□	□
・鍵に脱落防止措置（鎖や紐を付ける）をしている	□	□

I　クレジットカード	Yes	No
・盗難や紛失に備え、カード情報をまとめて記録保管している	□	□
・出かける際のクレジットカードは１～２枚とし、多額の現金は持ち歩かない	□	□

J　日常の車の整備	Yes	No
・車は定期的に点検し、整備は万全にできている	□	□
・燃料（ガソリン）は常時十分であり、またトランク内に予備の水、オイルなども常備されている	□	□
・駐車は管理の行き届いた駐車場を利用している	□	□
・貴重品や車の登録書類などを外部から見える所に放置していない	□	□

K　車での移動	Yes	No
・車の乗降時、周囲に不審な人物がいないか注意している	□	□
・毎日同じ時間、同じルートを使用していない	□	□
・万一、計画ルートに支障が生じた時の代替ルートを確保している	□	□
・追突事故や誘拐、襲撃などの危険性を考え、車間距離を十分保っている	□	□
・天気予報などに注意し、急激な気象状況の変化に備えている	□	□

危機管理情報の流れ〈図1〉
（JASFと関連機関との連絡体制の確立）



外務省海外安全ホームページ
http://www.pubanzen.mofa.go.jp/kaian_Search／fnewest_risk.htm

事件・災害発生時の情報ネットワーク〈図2〉

■ 事前情報の把握～

日本オリンピック委員会

TEL:03−3481−2233
FAX:03−3481−0977
www.joc.or.jp

外務省海外安全相談センター

TEL:03−5501−8162

外務省海外安全ホームページ

http://www.pubanzen.mofa.go.jp/kaian_Search/fnewest_risk.htm

MEMO

泳心一路

古橋廣之進

ふるはしひろのしん

戦争が終わって、再び水泳ができるようになった時、
魚になるまで泳ごうと思った。
私の目標は世界一になることだった
人の何倍もの練習を苦しいとも思わなかった
人間というものは大きな目標を持って
一筋に努力し工夫し、苦しみにも耐えてこそ
大きく成長していけるものだと思う

プロフィール
昭和3年3月16日生静岡県浜名郡雄踏町出身
平成21（2009）年8月2日世界水泳選手権
開催中のローマにて急逝享年80歳
日本水泳連盟 名誉会長
国際水泳連盟 副会長
文化勲章（平成20年11月）受章
選手時代33回におよぶ世界記録を更新

TOBIUO JAPAN

1、魚になるまで泳げ

赤ん坊は教えられて歩けるようになるわけではない。 一歩あるいては転び、二歩あるいては転びして覚えていく。 普段は陸上で生活しているのだから、『魚になるまで』という気持ちで取り組まねば、思うようには泳げない。 泳ぎ込むことで体が自然に覚え込む。

2、速く泳ぐだけなら、魚には勝てない

速く泳ぐだけなら、魚の方が速いのは決まっている。 何で泳ぐのか、どうして泳ぐのか。泳ぐ以上はどうしたら速く泳げるのか、そして自分は水泳から何を学びとるのか、を考えながら泳がなければいけない。

3、努力の前に壁はない

練習は不可能を可能にすると言われる。けれども、そのための練習に限りはない。 ここまでやったからいい、ということはない。

4、「集中」思い定めたら打ち込む

練習も、与えられたプログラムをこなすという受け身の姿勢からは、並の結果しか生まれない。 目移りするものや誘惑も多い時代だが、スポーツの世界を目指せるのは、青春のほんの一時期。 スポーツを通じて人と交わり、異なる文化や歴史、ものの考え方を学んで人生に生かさなくては。 現役時代は一瞬なのだから。

5、逆境こそが進歩の母

人間のすごさは机上の計算を超えられることだ。 気持ちや精神的なものもエネルギーとなる。諦めたら終わる。だが、あきらめず、工夫し、考え、努力すれば、道は開ける。

6、根底に哲学を持て

何事もただやるだけでは、それが終わったとき、すべてが終わる。 根底に哲学がなければ、それを『志』として生かすことはできない。 ただ記録を出せばいい、勝てばいいという傾向があるが、そうではない。 多くの人の支えがあって競技に専念できてもいる。 人間的に尊敬される選手になってほしい。選手生活が終わったら、何も残らない人間にはなってもらいたくない。